

平成23年度
(平成22年度分)

事務事業評価票

A 一般型

No. 1002011

通常評価

I 事業の概要

I-1 事業の概要

事務事業名	使用済てんぷら油回収事業	所管局部課等	環境政策局循環型社会推進部まち美化推進課
ホームページアドレス	http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000016745.html	(連絡先)	213-4960
		(評価票作成者)	まち美化推進課長 鈴木隆志

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	目標達成度評価	
34,256	40,500	現状のまま継続	33,600	指標：回収拠点数	
業務運営方法		委託(補助)先の名称, 委託(補助)の内容 (株)カンボへの回収業務等委託		<input type="checkbox"/> かなり悪い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> かなり	
実施根拠 (法令, 条例, 規則, 要綱等)		京都市循環型社会推進基本計画 (2009-2020)		事務事業の性格 <input type="checkbox"/> 義務的事業 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業 類型 11 その他	
開始時期	平成 9 年度	終了(予定)時期	平成 年度	会計区分 <input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計	



事業概要	対象	(誰を, 何を) 家庭から使用済てんぷら油を排出する市民
	活 動 容	(どのような手段で) 地域住民に対する回収支援の助成により, 市内各地に拠点を設置して使用済てんぷら油の回収を行い, それを環境にやさしいバイオディーゼル燃料に再生し, ごみ収集車(業者委託車両を除く)と一部の市バスの燃料として使用する。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 家庭から排出される使用済てんぷら油を可能な限り回収し, それを再利用し, 地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO2)の発生の抑制や循環型社会の構築に向けた環境意識の高揚を図る。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算		
			(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)		
①	事業費	共済費	45	91	98	104	125		
		賃金	400	783	853	880	880		
		需用費	475	811	3,681	5,614	1,908		
		役務費, 通信運搬費	30	83	200	158	158		
		負担金補助及び交付金	2,864	3,256	3,634	4,638	4,069		
		①' 委託料 回収業務	28,544	27,540	25,790	29,106	26,460		
	②	委託料が事業費に占める割合(①' ÷ ①)	(%)	88.2%	84.6%	75.3%	71.9%	78.8%	
	③	人件費(24年度は見込)	職員(課長級)	(人)	0.16	0.11	0.11	0.11	0.11
			職員(課長補佐級, 係長級)	(人)	0.34	0.29	0.29	0.29	0.29
			職員(係員)	(人)	0.75	0.85	0.85	0.85	0.85
嘱託職員等人件費			(千円)						
④	年間経費(①+③)	(千円)	44,278	43,972	45,394	51,638	44,786		
⑤	特定財源(市税等の一般財源以外)	国庫・府支出金	(千円)		32,564	34,256	40,500	33,600	
		受益者負担分(使用料, 手数料等)	(千円)						
		その他(基金繰入金)	(千円)		32,564	34,256	40,500	33,600	
⑥	京都市年間負担経費(④-⑤)	(千円)	44,278	11,408	11,138	11,138	11,186		
⑦	受益者負担率(受益者負担分÷④)	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

II 評価結果

事業名 使用済みてんぷら油回収事業

II-2 業績評価 (II-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略)

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	回収拠点数	目標値 …①	箇所	1,400	1,600	1,800	2,000	2,000
		実績値 …②	箇所	1,352	1,447	1,577		
		目標達成度 (②÷①)	%	96.6%	90.4%	87.6%		
	指標の種類	増加することが良いとされる指標	評価	良い	良い	良い		
指標2	回収量	目標値 …①	ℓ	170,000	180,000	200,000	210,000	212,500
		実績値 …②	ℓ	178,528	189,006	193,172		
		目標達成度 (②÷①)	%	105.0%	105.0%	96.6%		
	指標の種類	増加することが良いとされる指標	評価	かなり良い	かなり良い	良い		
			総合評価	良い	良い	良い		

指標の選択理由		目標値設定の考え方	
指標1	市民の環境意識の向上及び普及に加え、地域コミュニティの発展のためにも、回収拠点数を指標とする。	未来まちづくりプランの年次計画に掲げる拠点数(平成23年度に2,000拠点)を引き続き目標値とした。	
指標2	市民の環境意識の向上及び普及に加え、地域コミュニティの発展のためにも、回収量を指標とする。	市民の環境意識の向上、及び、事業の着実な普及のため目標値を設定した。	
分析	<実績値の変動理由等> 資源物回収マップを作成し、各学区に設置及び回収拠点の広報をしたことなどにより、市内全学区に回収拠点を設置し回収量は増加した。しかし、てんぷら油回収に伴う掃除などの手間及び汚れなどが敬遠され、回収拠点数は伸び悩んでいる。		

B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	回収量	ℓ	178,528	189,006	193,172
	②	年間経費(事業費及び人件費の合計額)	千円	44,278	43,972	45,394
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	248	233	235
	④	単位当たり経費変動率			-6.2%	+1.0%
			評価		良くなった	悪くなった
分析	<コスト変動の理由等> 平成21年度と比べ、平成22年度の経費が増加したため効率性が悪くなった。					

C 市民参加度	企画段階	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無	<現状分析、今後の方針等> 市民の協力がなければ成り立たない事業であるため、回収拠点の拡大に向けて、今後も引き続き本事業への理解を求めていく。
	実施段階	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無	
	評価段階	<input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
D 市民満足度	<調査の有無> <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 該当しない		<調査結果、現状分析等> 回収拠点の場所に関する市民からの問い合わせが数多く寄せられているため、市民参加の輪が広がるよう、回収拠点に関する情報発信(資源物回収マップの配布)を行う。
	<調査方法>	<調査時期>	
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 関連 <input type="checkbox"/> 一般		<現状分析、今後の方針等> 廃食用油燃料化施設への原料供給により、直接的に温暖化対策に寄与している他、市民の環境保全意識の啓発に役立つ。

平成23年度の実施状況	平成23年12月末で、1,618拠点(前年12月比+61)、151,742ℓ(前年12月比+2,254ℓ)となった。
-------------	--

市会・監査・外部機関等からの指摘	平成20年11月市会普通決算特別委員会で、回収拠点拡大目標の妥当性についての質問。平成21年6月のくらし環境委員会で、回収拠点の拡大は現場任せではなく、局が責任を持って方針を定めるべきという旨の質問。
------------------	--

III 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容) 引き続き、各エコまちステーションが、積極的に各種地域団体に働きかけ、回収拠点と回収量の増加を目指す。またイベントでの臨時回収による啓発や資源物回収マップの配布等により、事業、回収拠点等の周知を継続する。
---------	--